

エネルギー白書から

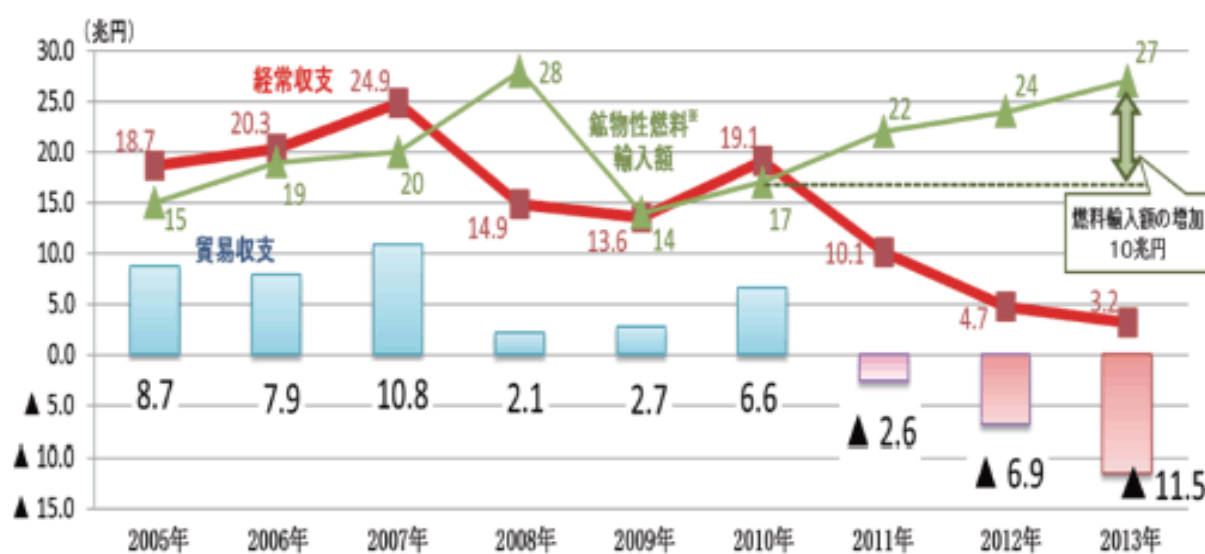
シリーズ第二部 「3・11及びその前後から顕在化してきた課題」

2 燃料輸入増による貿易収支 18.1兆円悪化（2010年比）

我が国の貿易収支（総輸出額－総輸入額）についてみると、こうした鉱物性燃料の輸入増などの影響により、2011年に31年ぶりに赤字に転落した後、2012年は赤字幅を拡大、さらに2013年には過去最大となる約11.5兆円の貿易赤字を記録し、震災前の2010年と比べると18.1兆円の貿易収支の悪化となりました。また、2013年の経常収支は約3.2兆円の黒字で、震災後からの縮小傾向が続くとともに、1985年以降最少となりました。なお、年度ベースでみると、2014年5月12日に発表された速報値では、前年度比81.3%減の7,899億円で、1985年以降では最少となりました。

震災前と比べて鉱物性燃料の輸入額が増加した要因としては、原子力発電所が停止した結果として火力発電を焼き増したために燃料輸入量が増加したこと、原油やLNG等の燃料価格が上昇したこと、為替相場が円安方向に推移したことなどが考えられます。原油は、発電用の石油の需要が増加した一方で、運輸部門や産業部門における石油の需要がエネルギー効率の向上等により減少傾向にあることから、輸入量は減少しました。LNGは発電用の需要の増加により輸入量は大幅に増加し、石炭も発電用の需要の増加により輸入量が増加しました。

貿易収支、経常収支及び鉱物性燃料輸入額の推移



(注) 鉱物性燃料とは、原油、液化天然ガス、石炭、石油製品、LPG等。

(出典) 貿易収支（総輸出額－総輸入額）、鉱物性燃料輸入額：財務省「貿易統計」を基に作成
経常収支：日本銀行「国際収支統計」等を基に作成